

ヨコハマ人・まち

第29号

まちへ人がまちをつくる

発行：横浜市 都市整備局 都市づくり部地域まちづくり課 TEL 045-671-2696 FAX 045-663-8641
Email: tb-chiikimachika@city.yokohama.jp
取材・編集：横浜市市民活動支援センター運営委員会 TEL 045-223-2666 FAX 045-223-2888
Email:y-sien-c@npo-c.city.yokohama.jp

【ヨコハマ・人まち 目次】

- ネットワークの強みをいかす
- 私達の組織及びプランが認定されました！～本松まちづくり協議会 わたしたちの防災まちづくり計画ができるまで
- まちづくり情報

● ネットワークの強みをいかす ●

多くの個人や団体が、長年独自に続けてきた活動でも、同じ思いで活動する仲間とネットワークとしてつながることで、様々な課題の解決の糸口に繋がったり、人材育成や情報発信、行政への提言などの成果をあげ、活動が活発になったりする事があるのではないのでしょうか。

そこで今回は、ネットワーク組織をつくることで活動基盤を充実させ連携の強みを活かした活動をしている「特定非営利活動法人横浜にプレイパークを創ろうネットワーク」と、「横浜ボランティアガイド協議会」をご紹介します。

●プレイパークはこんなところ！

みなさんは「プレイパーク」をご存知でしょうか。プレイパークは子どもたちが、自由に自分の「やりたい」を發揮して思い切り遊びながら学ぶ遊び場です。そして「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに禁止事項を極力なくし、木登り、泥遊び、焚き火、ドラム缶風呂など子どもたちは四季の変化を体で感じながら、思い思いに遊ぶ場でもあります。

●特定非営利活動法人 横浜にプレイパークを創ろうネットワーク(YPCネットワーク)

YPCネットワークは横浜市内のプレイパークの運営団体と運営市民が集まって2002年に発足しました。現在市内には10のプレイパーク（うち1箇所は横浜市の支援対象となっていません）があり、地域の大人たちのボランティアにより主体的に運営されています。プレイパークは地域の身近な公園を使った活動ですが、地域で「管理運営委員会」などの組織をつくり、市に登録することで、普通であれば公園では実施が難しい活動についても、公園の魅力を高めるものとして実現できるようになっています。（※実施時には横浜市公園条例に基づく許可を受けています）

現在もプレイパークの輪が広がっていますが、YPCネットワークではこれからプレイパークの活動をしたいという団体への支援を行っています。

●ネットワークだからこそ実現できること

また、プレイリーダー（*）の雇用や派遣、人材育成などでネットワークとしての力が発揮されています。ネットワークができる前は、各団体がカンパや自主財源をやりくりして運営していたため、プレイリーダーについても安定して雇用することができませんでした。しかし、ネットワークができ、横浜市が

夏の定番
ウォーター
スライダー



らプレイリーダーの雇用費等の支援が受けられるようになってからは、ボランティアではなく職として専念してもらっています。もちろんネットワークをつくったことだけで支援を受けられるようになったわけではありません。それまで長年に渡って活動を続けてきたことや熱い思いをもった方たちがいらしたことが原動力となり、施策への提言につながっていったと言えます。

最初は各団体が情報を交換しあう場であったYPCネットワークも、現在では横浜市青少年育成協会といっしょに「遊びのボランティア育成研修」を行ったり、プレイリーダーや運営スタッフが活動場所の安全管理を学ぶ「リスクマネジメント講座」や日本赤十字「幼児安全法」の受講・プレイリーダーの腕を磨く「工具研修」、「ロープワーク研修」を主催するなど、人材育成やどうしたら活動をより高めていけるかという長期的な課題にも取り組んでいます。地域ごとに運営の仕方や課題も異なりますが、それぞれの問題点を共有しながら、より大きな目標に向かっていく力を出し合えるのもネットワークの特徴ではないのでしょうか。

プレイパークは公共の屋外での活動なので、通りがかりの人ともコミュニケーションが生まれやすくなり、地域の人が関わりやすい場です。そこでは、高齢の方が遊びや工具の使い方を子どもたちに伝えたり、普段地域に顔を出さないお父さんたちも遊びに参加したりと、地域のコミュニティづくりにつながる、いろいろな可能性を含んだ場とも言えます。このようなプレイパークを増やし、子どもたちが生き生きとのびのびと育つまちにしようとYPCネットワークは取り組んでいます。

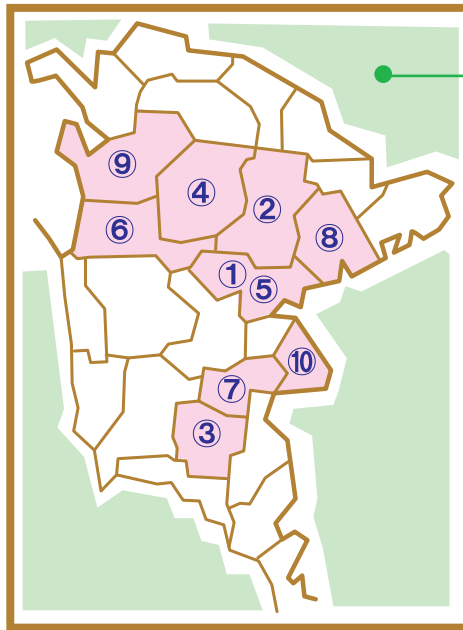
きちんと並んだ
工具





★プレイリーダー

遊び場の道具や素材の準備、遊具の配置などを工夫するだけでなく、子ども達の気持ちを受け止め、一緒に考え、求めに応じて知識を伝えるなど、子どもの自由な遊びと育ちを見守っています。また、ケガや事故などのトラブルにも臨機応変に対応するなど大きな役割を担っています。(写真 港南台生き生きプレイパーク 常駐プレイリーダーやんちゃさん、片倉うさぎ山プレイパーク 常駐プレイリーダーのりえもんさん)



★横浜市内のプレイパーク

- ①片倉うさぎ山プレイパーク (神奈川区)
- ②綱ヶ崎公園プレイパーク (港北区)
- ③港南台生き生きプレイパーク (港南区)
- ④都筑冒険遊び場まんまるプレイパーク (都筑区)
- ⑤白幡の森プレイパーク (神奈川区)
- ⑥三保ねんじゅ坂プレイパーク (緑区)
- ⑦みなみ遊ぼう会 (南区)
- ⑧つるみプレイパーク (鶴見区)
- ⑨青葉区冒険遊び場づくりの会 (青葉区)
- ⑩まかどの森プレイパーク (中区) (横浜市の支援対象外)

* 横浜にプレイパークを創ろうネットワーク <http://www.yokohama-playpark.net/index.html>

●横浜ボランティアガイド協議会

横浜ボランティアガイド協議会は、特定非営利活動法人横浜シティガイド協会、ほどがやガイドボランティアの会、横濱金澤シティガイド協会、鶴見みどころガイドの会、神奈川区いまむかしガイドの会の5つの団体が集まっている連絡協議会です。10年近く前から、かながわボランティアガイド協議会という県域での連絡協議会には、それぞれの代表が顔を出していたのですが、横浜市内で同じ活動を行っている団体がネットワークをつくったのは、平成17年、今から3年前のことでした。

●ボランティアガイド活動の思い

きっかけは、よこはま市民活動エールカードが、横浜市のアントレプレナーシップ制度から誕生したことです。エールカードとは、市民活動を継続して行い一定の条件を満たした方々が取得するカードです。5つの団体が話し合いを重ね、継続して3年以上ガイド活動をしていること、基本コース(4地区)すべてのガイド経験を有すること、周辺コース(3地区)のいずれかのガイド経験を有することなど共通したいくつかの条件を満たしたメンバーに、今後も継続して活動を行ってほしい、またボランティアガイドの質の向上と広く市民に活動を知ってほしいという願いをこめて、よこはま市民活動エールカード実施団体に応募したのです。現在では、5団体で100名近いメンバーがカードを取得し、ホスピタリティ研修も共通で行って人材を育成し、各地域で活動を広げています。

ボランティアガイドと聞くと、観光ガイドとどう違うのかと思う方もいらっしゃるでしょう。もちろん市外からのお客様をご案内することもあります。本来ボランティアガイドという活動は、市民のみなさんに、住んでいる地域の歴史や自然のことを知ってもらいたいという気持ちが原動力となっている活動です。ボランティアガイドのみなさんも、最初は生涯学級の講座を受けて地域のことを学ぶことからスタートしたのですが、学んだことを地域の人にも伝えたい、より地域を好きになってもらいたいという思いが仲間を増やしていったとも言えます。

●5つの団体の力が集まりました

現在ガイドボランティアの団体が横浜市内でも増えてきています。今年の秋には都筑区の市民活動支援講座として、「めざせ！都筑案内人 都筑ガイドボランティア養成講座」が行われる予定です。学ぶだけで講座を終わらせることなく、どうしたら地域の方へ活動を広げていけるかどうか、講座の組み立てや人

材育成にも横浜ボランティアガイド協議会として、力を尽くしています。地域資源をどう見出し、市民の学びの場、発見の場を作り出し、魅力を伝えていくか、どの団体もその地域の歴史や特性を活かしたコースを常に研究しているのです。

こうした活動の成果の集大成ともいえるのが、昨年(財)横浜観光コンベンション・ビューローが主催して行った第3回観光人材・地域紹介人材育成講座「横浜博士になろう！ガイドつき講座」に、横浜ボランティアガイド協議会が共催として参加したことがあげられます。全6回に渡る講義と現地研修の内容は、5団体からメンバーが集まり、勉強会を重ねてつくられたものです。この講座は、地域紹介人材育成講座だったのですが多くの市民にも好評だったため、今年も12月ごろ実施する計画が進んでいるそうです。

また、今年の春開港150周年記念イベントとして行われた「80年前の市境を歩こう！」という企画も協議会として新たに取り組んだものです。80年前は、横浜市も鶴見、神奈川、保土ヶ谷、中、磯子の5つの区だったのですが、その当時の市境を歩くという興味深いイベントです。昭和2年当時の横浜地図や東海道のジオラマを作り、歩くコースを作ることはとても時間と労力のかかるものでしたが、協議会として5つの団体が集まってこれまでの経験と力を合わせたからこそ実現した企画だと言えるでしょう。

●自分たちのまちを愛する気持ちでつながるネットワーク

今年6月に横浜市で行われた開港5都市市民会議でも、横浜ボランティアガイド協議会は観光市民会議の分科会を担当し、ボランティアガイドという活動が単に観光案内ではなく、地域の歴史と資源を学び、多くの市民に横浜、そしてそれぞれの地域を故郷として愛着をもってもらえるような案内をしていきたい、まちづくりをしていきたいという思いで行っていることを伝えました。

みなさんも、どれだけ横浜のこと、自分の地域のことを知っているのでしょうか。また、横浜を自分のふるさととして感じ、そのよさを周りの方に伝えることができるのでしょうか。そのような問いかけを常にしながら、今日もボランティアガイドのみなさんは、多くの方々にまちの魅力を伝えています。

ランドマークタワーがよく見える丘の上にある野毛動物園前のバス停を降り、急な坂を下ると、西区の中でも住宅が密集した地域が広がっています。地域内の道路は幅員が狭く、ほとんどが坂道、ほとんどが私道という現状で、消防車や救急車などの緊急車両や福祉車両が入ることが難しいだけでなく、災害時に避難するための道も急な階段が多いため安全が確保されているとは言えません。このような防災上の課題を抱えた地域にある西戸部二丁目第一自治会と羽沢西部自治会は、平成18年6月に一本松まちづくり協議会を設立し、協力して防災まちづくり計画を策定してきました。二つの自治会の会長である、齊藤さんと米岡さんに話を聞いてきました。

横浜市は防災上課題のある密集住宅地の改善のため、「いえ・みち まち改善事業」を推進していますが、この地区が対象の23地区のひとつに選ばれたことをきっかけに、勉強会を積み重ね、協議会を設立しました。このように市の事業がきっかけで、二つの自治会が一つの協議会として協力し、防災の課題に取り組むことになりましたが、それぞれの自治会は、地域で活動してきた経験を活かし、双方にない部分を補い合いました。この二つの自治会の連携による取り組みが、計画を作り上げ、今年の8月の地域まちづくり組織およびプランの認定につながったのです。多くの方が参加した勉強会では、まち歩きをして危険な箇所を確認したり、実際に消防車を地区内に進入させてみてどのようなことになるのか確かめてみたりしましたが、当初はまちづくり計画ができあがるなど考えられず、一筋の光も見出せなかった。」と、羽沢西部自治会会長の米岡さんは当時を振り返っておっしゃっていました。

特に道路の拡張（セットバック）については、1千万単位のような壁工事を伴うもの、敷地の減少で家が建てられなくなるもの等様々な課題を抱えているため、取り組むには余りに困難な課題と思われていたそうです。その他に

※ いえ・みち まち改善事業

横浜市では、防災上課題のある密集住宅地の改善のため、「いえ・みち まち改善事業」を推進し、延焼危険・倒壊危険等の客観基準により23地区660ヘクタールを選定しています。

<http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/iemichimachi/>

※ 地域まちづくり支援制度

地域の課題解決や魅力向上など、身近な地域のまちづくりに関する活動を行うおうとする市民のみなさんに対して支援する制度です。

<http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/shien/>

私達の組織及びプランが認定されました！

一本松まちづくり協議会 わたしたちの防災まちづくり計画ができるまで



改修を考えている井戸



町内に多数存在する階段のひとつ

この地域の安全を強化できることはないか、地域の方々の不安に思うことは何かを知るために全戸対象にアンケートを実施し、同時に地域の事情を行政に伝えてきたそうです。

防災まちづくり勉強会……………

一本松まちづくり協議会は、地域まちづくり支援制度を利用して専門家を派遣してもらい計画づくりを進めていきました。まず地域に住んでいる方が危機感を感じている場所を知り、専門家に相談しました。まち歩きを続けて気づいたことは、2つの自治会の地域では、危険度が異なるということでした。それでも一緒に歩いてみて実際に危険な箇所を学ぶことで、次第に協力していくことができるようになっていきました。そして、自治会同士が問題点を出し合い共通な部分は力を合わせて解決していこうという体制ができ、防災のまちづくり以外にも協力していける基盤づくりにつながったそうです。

まち・こころづくりプラン……………

防災まちづくり計画の中には「まち・こころづくり」というプラン（目標）が盛り込まれています。災害時に高齢者などで支援が必要な方への支援体制を整えていくといった取組などが定められています。西区には区独自のふれあい会という組織や、この地域では日頃か

※ 地域まちづくりプラン認定

この認定制度は、横浜市地域まちづくり推進条例に定められたもので、地域の目標・方針やものづくり・自主活動など課題解決に向けた取り組みを、地域まちづくり組織が地域住民等の理解や支持を得ながらとりまとめた計画を、地域まちづくりプランとして、市長が認定する制度です。

<http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/katsuyou/pl-ninteibo.html>

※ 一本松まちづくり協議会 防災まちづくり計画

<http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/chiikimachi/katsuyou/pl-ninteibo.html#p08003>

らのご近所のお付き合いもあり、既に一人住まいの高齢者の状況は把握できていましたが、今後は病気やケガをしている方や外国の方に対してどこまで支援できるか考えていきたいそうです。小さな路地を挟んでご近所づきあいをしているこの地域だからこそできる活動と言えますが、助けることができても避難所までの危険な道を今後どのように整備していけるかなど、活動をつうじて多くの課題を見出す事ができたようです。

また、防災まちづくり計画についてはアンケートも行いました。その中で最も支持が多かったのは、見通しが悪い交差点や車道・歩道が狭い場所の幅や改良などについてのプランでした。まず、西戸部二丁目第一地区では、「ミニ防災広場」として、既存の公園にかまどベンチを設置することを、羽沢西部地区では、今でも豊かな湧き水が出る4箇所の井戸を、災害時にも活用できるように囲いや屋根をつくり、手押しポンプを設置することを考えていくそうです。さらに協議会としては各世帯で取り組めることから始めようと、家具転倒防止器具や、飛散防止フィルムなどをまとめて購入し、購入者の負担をできるだけ軽くする

など、災害時の事故を未然に防ぐ活動についても検討しています。この場合も、高齢者や設置が難しいお宅へは「(仮称)お助け隊」が出向いてお手伝いする活動もしていくということで、心強いご近所の支え合いによってこの防災まちづくりが進められています。プラン認定に至った今、大きな期待を持って新しい一歩を歩き始めたようです。

このように、まちづくりには、住民自らが「自分たちのまち」について考え行動していくことが何よりも大切だと言えるのではないのでしょうか。



町内の地域模型を作りました

よこはまのまちづくり情報

住まい・まちづくり相談センター「住まいるイン」 ～気軽にまちづくり相談にお立ち寄りください！

平成20年7月、住まいのことはもちろんまちづくりに関する相談にもお応えする「横浜市住宅供給公社 住まい・まちづくり相談センター」が横浜駅東口にオープンしました。住まい・まちづくり相談センターは横浜市のまちづくり支援団体としても登録しているので市街地開発事業などの専門分野での相談にものれるなど、多くのまちづくり支援メニューがご紹介できるセンターです。住み替え相談からまちづくりまで、じっくりお話をきいて具体的に相談にのることが出来るワンストップ窓口となっています。

地域の課題や将来像を考え、みなさんもよりよいまちにするために、身近なまちづくりを考えてみませんか？ぜひお気軽にお立ち寄りください。

<http://www.yokohama-kousya.or.jp/scenter/scenter.html>

営業時間：平日 9:00～18:00

土・日・祝日 10:00～18:00

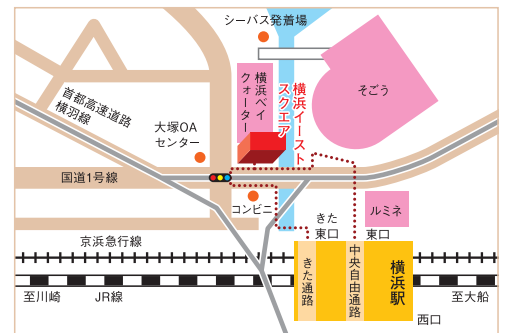
定休日：毎週水曜日(祝日含む)・年末年始(12/29～1/3)

所在地：横浜市神奈川区金港町1-4 横浜イーストスクエア1階

最寄駅：横浜駅きた東口から徒歩3分

TEL 045-451-7762

FAX 045-451-7707



●まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取り組みなどの情報を下記までお知らせください。このページ及びメールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

情報提供のあて先：

横浜市 都市整備局 都市づくり部 地域まちづくり課

TEL：045-671-2696 FAX：045-663-8641

e-mail：tb-chiikimachika@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」は地域まちづくりに関心のある方への転送、メールマガジンへのお誘い大歓迎です。メールマガジンの配信申し込み・停止は、下記のアドレスからお願いいたします。

<http://ml.city.yokohama.jp/mailman/listinfo/hitomachi>

★「ヨコハマ人・まち」バックナンバーはこちら

http://www.city.yokohama.jp/me/toshi/hitomati/back_num/index.html